

新除草・調節剤

の下草を対象に、効果的に使用できる。

抑草期間は40～60日位で、殺種子性がないため、急激な草種の変化がなく土壌流亡のおそれが少ない。そのため、傾斜地の多いミカン園でも使用が可能である。

毒性については、人畜・魚貝類に対し実用上ほとんど心配ない。

使用方法：気温の高いときほど効果が高いので、夏草に有効である。7月頃（梅雨あけ直後の夏期高温時）に10アール当り製品2～3ℓを150～400ℓの水にとかして濃度（0.75～1.5%）加圧式噴霧機で雑草の根もとまで充分にぬれるように散布する。

使用上の注意としては、なるだけ果樹の莖葉にかからないようにすること。当年植えの苗木は薬害を受けやすいので、樹上から散布しないこと。気温の低い春秋および散布後1日以内に降雨があると、効果がおちる。

多年生雑草には効果が少ないので、これの少ない園で使用する。防風林でモリシマアカシヤは、本剤に弱いので注意すること。マサキ・サングジュ・スギ・イスノキでは莖葉に多くかかると害がある。

アリセツブ

PCA・BIPC水和剤

北興化学工業株式会社

対象作物：タマネギ本畑。

性状・作用特性：本剤は、1-フェニル-4-アミノ-5-クロロピリダゾン-6（PCA）20.0%とブチニル-m-クロロフェニルカーバメイト（BIPC）16.0%を有効成分とす

る混剤である。

本剤は、イネ科および広葉の一年生雑草を対象とした非ホルモン型の移行性除草剤で、雑草の発芽期では根から吸収され、また子葉期～本葉才1葉期では莖葉から吸収されて、殺草効果をあらわす。

タマネギには選択性があり、殺草効果が気温によって影響されることが少ないので、秋の定植活着後処理および春の生育期処理に効果的かつ安全に使用できる。

残効性は長い方であるが（2カ月位）、秋の活着後と春の生育期の2回処理は、きわめて優れた効果がある。

毒性については、ラット急性経口毒性LD50が、PCA 3,600mg/kg、BIPC 2,500mg/kg、魚毒がヒメダカTLM 48hr 14ppmで、極めて低く、実用上心配がない。

使用方法：定植活着後（秋期）または生育期春期に10アール当り製品量400～600gを100ℓ前後の水に溶かして、地表にむらなく散布する。なお、定植活着後と生育期の併用は、非常に効果がある。

使用上の注意としては、雑草の発生前や幼草時を狙って散布し、すでに雑草が大きくなった場合には、効果がないので、中耕除草後に使用すること。なお散布にあたっては、他の作物にかからぬようにすること。作物の成育が悪いときおよび高温時には、薬害を生ずることがあるので注意すること。